重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: 耕耘機、歩行式トラクタ	現地の通称: 古川スクリュー耕耘機

資料種別: ◉製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類: 動力・分野
☐人力用具 ☐耕起前器具 ☐管理防除 ☐貯蔵関連
☐畜力用具 ☒耕耘用具 ☐収穫機 ☐施設類
☐原動機具 ☐整地用具 ☐調製機器 ☐機素
☒トラクタ用機 ☐施肥播種 ☐加工機器 ☐その他

管理プレートNo. 牝牛舎110

台帳No.

製作者・会社: 古川農機具工業（株）　製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年: 1955年（昭和30年）頃製

使用目的・使用方法等: 動力機＋耕起作業機

利用経過_収集記録_意義等: 実験室と屋根裏２台、由来：縦軸スクリュ式は1940年(昭和15年)石川県の古川平次郎が発明　クリュ刃の直径20cm高さ36cmあるので耕うん幅80cm、最大耕うん深約30cmとなり、深く耕うんすることで普及。専売特許で全国的に愛用されたが、ロータリ式のなた刃耕耘機の開発によって1955年(昭和30年)頃から普及がにぶり、1966年(昭和41年)に生産中止した。

仕様書_解説等

右に全体図

外観特色関連図等

資料の所在: 牝牛舎

資料への特記事項

資料管理経過

作業メモ・上掲欄の超過文追記: 日本型耕耘機への発展＝昭和10年代までに、特に岡山・児島湾干拓地の同好者が輸入機を見本に種々の耕耘機開発を試み、幾通りかの実用的機構を開発した。クランク式とロータリ式は、別頁に述べた。残るスクリュー耕耘機は、穴あけのドリルがヒントにしたかも知れないが、前進時の刃部の軌跡を考えると擬似的にプラウ曲面を模式しているようであり、1955年ごろまで製品化が遅れたが、強力で深起しができるとして愛好者が使って後年まで残った。

台帳管理番号